変心な ふじみ野市を目指じて

17年度と18年度決算 の違いは

民主党・市民クラブ

駅前開発、 違いは。 であった。 ある。 な原因は、 ○○万円の減です。 ○万円、歳出で七○億七、 歳入で約六二億七、

境に、各々旧市町の継続予算 十七年度は十月一日を 十七年度決算との 減額の主 0 \bigcirc

影響はどうか。

国の三位一体改革による

平成十七年度と十八年度

国庫補助負

基金が必要です。

今後契約差

四八〇万

各種基金の統合整理も検討 額等財政基金に積み立てて 市として初めての通年決算で 平成十八年度決算は、

設や大井給食センター 上野台保育所の建 歳出で上福岡西口 九六万円のマイナス影響があ円の減、その結果二億八、二 地方交付税五億一、 担金一億三、九一五万円の減、一〇〇万円の増、国庫補助負 比較では、所得譲与税三億七、 答

交付税が本来の額より六億 収支比率も九五・六%と好転 五三万円の黒字となり、経る。実質単年度収支も一、 ストの縮減が可能ではなく 人当たりの借金からどう見る した。合併効果を交付税や から合併効果をどう見るか ○○○万円ほど多くなり 合併当初すぐには行政コ 合併後初の通年決算とな 借金は市民一人当た 経常 七 答 市の状況は。 制限されます 債費比率が指標となる。 特別会計を含めた実質公 公明党

のか。

の充実が図られました。 円ほど増えましたが、諸 が許可制から協議制へ移行門 平成十八年度から地方債 七七七円と二万 諸施設

を超えると一般単独事業債も %を下回っています。 八・四%と県平均一二・五 二 五 %

交付税や一人当たりの借金

比率の改善と考えます 当面の課題は、 経常収支

る。 広域化の考えは。 い遺

我が

建設には五億円程度かか ほかの施策との優先 広域化も選択肢の 慎重に取り組

議案に対する 総括質疑

国民健康保険医療費の 現状は

自民クラブ

八万二、八八二円で約四倍の十五歳以上の後期高齢者は七 医療費となっております。

代では一八万九、

加が見られる。 国民健康保

年度医療費実績では、 円の増となっています。 均で毎年約四億九、 十四年度から十八年度まで平 りを繰り出しています。 一般会計から約七億円余 九五七円、 〇〇〇万 現役世 平成 七

国民健康保険医療費の 現状について

も

され、 康保険に加入されていた方 めることになります。 療制度が都道府県単位で設置 制度にかわって後期高齢者医

が示された。その内容は。 十八年度に医療制度な 二十年四月から老人保健

保険料を広域連合で定 国民健

合併による効果は 定員管理計画に基づ

約二億円の削減効果がありま を図りました。十八年度では、 採用する方針で人件費の抑制 定年退職者の二分の一

を



定保健指導が開始されます

予防に重点を置いた特

加入することになります。

新

七十五歳に到達しますと

した。

「サービスは高く 負担は低く」 の公約は

日本共産党

分だったのか。合併時の公約ためのセーフティネットは十 捨てなど住民負担が増えてい 先順位を付けながら、 は守られたのか。 改革のもと、 限られた財源の中で、優 国の悪政から住民を守る 平成十八年度は小泉構造 社会保障の切り 事業は 答 問

る。

すべてに「負担は低く、 実施しなければなりません。

めをし、事業内容を精査する 歩道拡幅事業を完成させたい 期・長期に区分して検討しま としていたが、その結果は。 東西連絡道路事業などは足止 東西連絡道路は、 短期事業は、踏切付近の

答

もありません。

短期·中

ビスは高く」とできるもので

答

と思います。

施政方針の中で、 市長は

> 開についての考え方は。 安全・安心なプ 間もなく検討に入りたい ルの再

了後は当面休止いたします。線は第一期施工区間の工事完

と思っています。

なお、

かけて検討すると言ってい環バスの実施について、一年間 合併時の公約であった紙 合併時の公約であった循 結果は。 い年

路線変更を東武鉄道が検

討するので、路線変更

甲の予算編成にどう生かすの問 決算の結果を、平成二十

まいります。後さらに行財政改革を進めてする基盤をつくるために、今

ります。 みます。 つです。 順位を考慮し、

りました。

など、

事業完了に伴って減額

となりました。

円を取り崩した。来年度予算債基金から四億四、〇〇〇万 源不足のため、 から七億四、 -九年度予算編成は、 〇〇八万円、 財政調整基金 減

編成はどうなるのか。 一二億円程度の財政調整

7… ふじみ野市議会だより第8号〔2007年9月定例会〕